

2018.1.1 第164号 **ながの**
社会福祉士会 NEWS

■発行：公益社団法人長野県社会福祉士会
 会長：萱津 公子
 ■編集：広報編集委員会

■事務局：〒380-0836
 長野市南県町685-2 長野県食糧会館6F
 ■発行部数：2,200部

■TEL：026-266-0294
 ■FAX：026-266-0339
 ■E-mail：info@nacsww.jp
 ■HP：http://nacsww.jp/

目次	<ul style="list-style-type: none"> ■年頭所感 <small>ソーシャルワーカー</small> ジェネラリストSWとしてスキルアップを！…………… 1 ■昨年の三大ニュース、今年目標並びに地区総会、シンポジウムの紹介 ～各地区理事の一言～ …………… 2～3 ■長野県社会福祉士会 年男・年女 今年の抱負 …………… 4～5 ■南信地区学習会 …………… 6 	<ul style="list-style-type: none"> ■大北地域保健医療福祉関係団体合同 災害支援研修会～地域住民と専門職それぞれの視点から考える～に参加して …… 6 ■重症心身障がい児・者シンポジウム 2017in 長野 …………… 7 ■リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～ …………… 8 ■信州ぐるっと!! …………… 8 ■今後の予定 …………… 8 ■編集後記 …………… 8
----	---	---

Nagano Association Certified Social Workers



年頭所感

ソーシャルワーカー
ジェネラリストSWとしてスキルアップを！

公益社団法人長野県社会福祉士会

会長 萱津 公子

社会情勢が混迷している今日ですが、本年が皆様にとって平穏な年となりますように祈念いたします。

さて、昨年の長野県社会福祉士会は、事業計画に示したもののベースとして、地域社会において、すべての人々が共に暮らし、生きがいを持ち、高め合うことができる『地域共生社会』の実現とは何なのかについて、考え、取り組んできました。

地域における人間関係が希薄になり、地域課題に対して、他人事になりがち意識を自ら変え、地域住民が『我が事』として主体的に取り組む仕組みづくりの推進と、市町村においては、地域づくりへの取り組み支援及び、分野を超えた福祉サービスへのつなぎを含めた『丸ごと』の包括的・総合的な相談支援体制の整備が必要とされています。

これは、まさにソーシャルワークの必要性が広く認められ、社会福祉士がその力をさらに発揮する時代であると考えます。併せて、どのような環境や状況にあっても、人としての尊厳が守られ権利が擁護されることが必要です。

一昨年施行された「成年後見制度利用促進法」に伴い、本会は昨年プロジェクトチームを結成し、県や弁護士会、司法書士会等の関係機関や団体とともに、「成年後見制度利用促進法」についての研修会を行い、市町村への取り組みの要請等を行ってきました。

国は「成年後見制度利用促進基本計画」の中で、各

地域における連携ネットワーク及び中核機関については、『広報機能、相談機能、成年後見制度利用促進機能、後見人支援機能の4つの機能について、段階的・計画的に整備されることが求められるとともに不正防止効果にも配慮すべきである。』としています。

特に、目前に迫った2025年、高齢者人口がピークを迎え、認知症予備軍も含めると認知症の人が700万人に達すると言われている時代に、高齢者の権利や財産を守るためにも成年後見制度利用促進法の施行は重要な意味があり、喫緊の課題として取り組む必要があります。

来年度から3年間の計画期間で策定される「市町村高齢者福祉計画・介護保険事業計画」等の策定作業が進められております。そして、多くの市町村でパブリックコメントの募集が行われている中で、本会では「市町村高齢者福祉計画・介護保険事業計画」等の中に取り入れていただきたい意見提案を昨年末市町村長宛てに行いました。

誰でも誕生から人生の最期まで、人としての尊厳が守られる暮らしの実現のために、私たち社会福祉士会会員は、関係機関や団体とのネットワークを有効に活用し、ジェネラリストソーシャルワーカーとしての価値・知識・技術のスキルアップを共に目指して行きましょう。

昨年の三大ニュース、今年目標並 ～各地区

東信地区



氏 名：岩澤 純
所 属：社会福祉法人佐久平福祉会
座右の銘：なんくるないさー

自身の今年目標

健康で1年を過ごす（畑仕事、ハイキング、テニスで運動不足解消／寝る前のお菓子を控える!?)

昨年の三大ニュース

- ① 度重なる北朝鮮の核実験・ミサイル発射：戦争は最大の「反福祉」。制裁と対話の均衡を望む。
- ② 海外技能実習、いよいよ介護分野に解禁：人口減少に伴う社会構造変化の波が福祉現場にも。
- ③ 藤井聡太&ひふみん、ブレイク：閉塞感漂う世の中で、ゆるキャラ系天才の二人に心が和んだ。

今年の地区の目標

できるだけ多くの会員が活動に参加できるように、学習会、懇親会の企画を進めるとともに、公益社団法人の地区支部として、地域に少しでも発信できる活動をしていきたいと考えています。皆様のご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

地区総会&シンポジウムの告知

2月24日(土)午後、地区総会とシンポジウムを小諸市民交流センターで行います。シンポジウムでは、今年度の地区学習会の継続テーマである「発達障がい」について、教育、虐待、貧困につながる地域課題として考える場にしたいと考えています。

北信地区



氏 名：長峰 夏樹
所 属：長野県社会福祉協議会
座右の銘：走りながら考える

自身の今年目標

次世代が夢を持てる「共生保障」の自分なりのビジョンづくり、職場としてのビジョンづくり。

昨年の三大ニュース

- ① 重症心身障がい児・者シンポジウムを開催
娘の呼吸器の管理で常に目が離せない母親。介護老人保健施設の医療系資源が在宅生活を支えている。多機関による包括的支援を実感。
- ② “「50年・100年後」に目指される職業・資格に”
田村満子講師（元・日本社福士会副会長）の研修会での締めの一言に感動。高い志で取り組みを続けよう、その価値がある仕事だからこそ。
- ③ 地区セミナー「子どもの貧困と地域支援…」大好評！
2月開催の地区セミナーは、当日・一般参加者も多く、新聞でもしっかり報道されました。公益社団法人として、広く県民に発信することも大切ですね。

今年の地区の目標

平成30年度の本会総会は、北信です。丸ごと学会では、豪華？特典付きの三賞新設が目標です。

また、新規会員向けのお誘いや社会福祉士を目指す学生との交流など、地区活動のすそ野拡大を目指します。

地区総会&シンポジウムの告知

テーマ：「医療・福祉現場における保証問題を考える」

趣 旨：多くの権利擁護関係者が悩むこの問題。弁護士会、司法書士会とも連携し、あるべき支援の姿を学びます。

期 日：2月17日(土) 13:00～

会 場：にじいろキッズらいふ

びに地区総会、シンポジウムの紹介

理事の一言～

中信地区



氏名：杉本 博志
所属：NPOケアタウン浅間温泉
座右の銘：「日々新面目あるべし」（会津八一「学規」）

自身の今年のご目標

仕事に際しては介護報酬改定にめげず、私事においては部屋を片付け、世にあっては戦後民主主義の積み重ねを貶める流れに抗い、社会福祉士会の活動については…とりあえずがんばる（笑）

昨年の三大ニュース

- ① 定時総会・福祉まるごと学会を松本大学にて開催（6月）…地区会員が力をあわせ、成功裏に終えることができました。
- ② 障がい分野の学習会を連続開催（7月～毎月）…地域生活支援拠点整備をテーマに実施中。企画おつかれさまです！
- ③ 諏訪元久会員死去（6月）…さまざまな福祉活動に精力的に取り組まれ、大きな足跡を残されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

今年の地区のご目標

中信地区では引き続き、地区の基本方針として「会員一人ひとりが主役の地区運営」を掲げ、地区会員全員が主体性を発揮することをめざしていきます。今年は特に、福祉活動委員会をはじめとした各委員会の、地区レベルでの活動活性化に取り組みたいと考えています。会の活動を通じて、地域の様々な福祉課題について検討を深め、ソーシャルアクションにつなげていきましょう。

地区総会&シンポジウムの告知

テーマ：「地域共生社会の実現にむけて～福祉専門職としていかに取り組むか～」
内容：日本福祉大学学長補佐の原田正樹先生の基調講演および本会会員2名の実践報告
日時：1月28日(日) 14:00～16:45
会場：松本大学5号館522教室

南信地区



氏名：伊藤 浩志
所属：茅野市役所
高齢者・保険課
座右の銘：努力は人をつくる

自身の今年のご目標

茅野市ふれあい保健福祉事業（茅野市における介護保険の上乗せ、横出しサービス）の担当職員として、時代のニーズや今後の予測を踏まえ、事業の見直しと改善を行いたい。

昨年の三大ニュース

- ① 上伊那ブロックにて、11月に上伊那圏域三士会（県弁護士会、成年後見センターリーガルサポートながの、社会福祉士会）合同学習会を開催。
- ② 南信州ブロックにて、同じく11月に災害対策の学習会を開催し、上伊那ブロックや諏訪ブロックから多くの会員が参加した。
- ③ 諏訪ブロック学習会の日時を、土曜日昼間から会員等が集いやすい平日夜間に変更した。

今年の地区のご目標

- ① 「重症心身障がい児・者シンポジウム」を開催するよう準備していきたい。他地区の皆様も、ぜひご参加を！
- ② 会員一人ひとりが各現場（職場）の、それぞれの業務（分野）において、学習会等で得たものを生かせることを目標にしたい。

地区総会&シンポジウムの告知

・2月17日(土) 13時から、箕輪町文化センターにて地区総会を開催し、地区総会后、認知症フォーラム（14時30分から16時まで）で学習します。
・映画、劇「認知症と向き合う」を鑑賞後、意見発表や情報交換会を行います。
認知症になっても安心して暮らすことができる地域づくりについて学ぶことを目的とします。

年男・年女 今年の抱負

中信の年男

川越 康孝 さん

社会福祉士として日々心がけている事

社会福祉士は、仕事だけではなく常に地域と関わっていることが大切だと思います。私は、20年以上地域の小・中学生に剣道を通じて関わってきました。ただ剣道を教えるのではなく、こども達一人ひとりの声に耳を傾けるようにして成長を見守っています。自治会活動等にもできる限り協力し、地域の皆さんと関わる機会を多くするように心がけています。

勤務先：障害者支援施設
上松荘

血液型：O型

趣味：野菜作り

特技：剣道、ギターの
弾き語り

座右の銘：万里一空
宮本武蔵が長年の修業で到達した精神的境地です。

入会年度：平成 15 年度



勤務内容や年男・年女としての一年の抱負など

仕事は、法人理事業務と施設運営業務等を行っています。上松荘には、昭和58年に生活指導員（旧名称）として就職し35年目です。平成13年からは療育コーディネーターとなり、そのまま障がい者総合支援センターで勤めました。その時に地域の障がいのある方やご家族に接したこと、市町村の福祉担当者等と連携できたことは、社会福祉士としても良い経験になりました。上松荘には平成20年に戻り現在に至っています。

今年の抱負：健康に留意して、仕事と剣道に邁進したいと思います。

南信の年男

前澤 征典 さん

社会福祉士として日々心がけている事

社会福祉士（ソーシャルワーカー）は“社会”“福祉”に対して働きかける人間性、専門性が求められている職種であると考えます。職場における職員間の信頼関係の形成、専門職間や地域におけるネットワークづくりは、利用者のより良い生活を実現するためにとっても重要なことだと思っています。また、社会福祉士会の基礎研修に参加し、専門職としての在り方や視点を学び、自己研鑽に努めています。

勤務先：ケアセンターふれあいの里

血液型：B型

趣味：ドライブ

特技：パソコン

座右の銘：ひとつひとつ、一步一步。

取り組み、積み重ねていくことで、大きな形が築ける。

入会年度：平成 29 年度



勤務内容や年男・年女としての一年の抱負など

昨年夏より、デイサービス生活相談員の業務に従事しています。日々の利用者情報の確認、サービス提供の管理、ケアマネジャーとの連絡調整、サービス担当者会議の参加、新規利用者契約等の業務を行っています。利用者がより快適な生活を送っていくことができるように、本人や家族の考えや思いに寄り添いながら支援していけるように努めています。

日々の業務より学ぶことが多く、今まで以上に緊張感を持ちながら取り組んでいます。早く一人前の生活相談員になり、温かみのある生活支援を提供することができるようになりたいと思っています。また、社会福祉士のつながりを大切にしていきたいと考えています。よろしくお願いします。

新年の抱負を、戊年にちなみ県下各地を駆けずり回っている年女年男の社会福祉士会員に、携わっている業務や心がけていることを聞いてみました。

北信の年女

宮岡 由佳 さん

社会福祉士として日々心がけている事

相談者が期待するような結果や方向に話を進められないときもありますが、帰る時には市役所に来て良かったと思ってもらえる対応を心がけています。

勤務先：飯山市役所
血液型：A型
趣味：バレーボール
特技：胃カメラを飲むこと

座右の銘：模索中です。
好きなことばは
“だいじょうぶ”です。
入会年度：平成17年度



勤務内容や年男・年女としての一年の抱負など

私の現在の仕事は、国民年金に関する業務全般です。窓口で市民の方の各種相談・届出の受付もしています。中でも障害年金の申請は色々なパターンがあって難しい業務であり、とても気を遣う業務です。これまでの病歴等聞き取りを詳しく行わなければならないので、請求者に嫌な思いをなるべくさせないように、そして丁寧にわかりやすく対応するように心がけています。

新年の抱負は、現状に満足せず、新しいことにチャレンジする一年にしたいです。(ちなみに昨年の目標は“余裕のある生活・行動をする”でした。)

東信の年男

高橋 秀嗣 さん

社会福祉士として日々心がけている事

介護療養型老人保健施設の支援相談員として勤務し、適切なクライアント支援には職場と自身の職種の役割理解が必要だと感じています。その役割の下、利用者さんやご家族がなぜ相談に至ったのか、いつから誰がどのような事に困っているのか、何が改善するとより良くなるのか等、相談を通じて支援できるように心掛けています。それには、アセスメントが極めて重要で、現実の状態への摺り合わせを行うことが社会福祉士の大きな役割と感じています。

勤務先：鹿教湯三才山リハビリテーションセンター介護療養型老人保健施設いずみの

血液型：A型
趣味：食べること
出掛けること・服
特技：車の運転
座右の銘：表裏一体
人には、社会や家族の中でそれぞれの顔があり、それも含めすべてが自身に影響を与えていることだと感じているため。
入会年度：平成23年度



勤務内容や年男・年女としての一年の抱負など

いずみのは、上小地域には1つしかない介護療養型老人保健施設です。通常の介護老人保健施設に比べ、病院からの受入れを優先する基準や経管栄養や吸引が必要な方の受入れ割合が多く設定されているため、いずみのは施設内だけでも、医師・介護福祉士・看護師・介護支援専門員・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・薬剤師・管理栄養士・歯科医師・歯科衛生士と、多くの職種と相談連携が行えます。薬剤管理や創傷処置等の医療的な支援においても多職種の視点を取り入れる中で、社会福祉士として専門性を活かしながら多職種協働で行う支援は日々勉強であり、やりがいと楽しさがある職場です。多職種のアプローチ方法や考え方を共に支援することで他の職種が大切にしていることも学べ、その視点を踏まえつつ、自身の職種の専門性を発揮しやすいことも介護療養型老人保健施設の良い所だと感じています。

南信地区学習会

災害時に際して自分たちができること

日時 平成29年11月25日 13:30~15:30

講師 山崎 博之氏（長野県社会福祉士会 災害福祉支援プロジェクト委員長）

場所 飯田勤労者福祉センター 第一視聴覚室

私自身これまでに大きな被害に遭ったこと、または直接そうした支援に携わった経験がないが故に、恥ずかしながら災害という現実があってもどこか他人事でいたのが事実である。居住する地元（諏訪市）ではここ10数年間に少なからずの災害が起きているのに、である。

職業柄、社会福祉援助者として他者をサポートする知識、技術は常々意識しているつもりであったが、今回の学習会で非常に響いたのが「受援力の高さ」という内容であった。

私は社会福祉士として、援助する立場からしか災害支援について考えていなかったし、そうであれば現在の自分にはそれほど出番も必要性もないと思っていた。しかし「支援を受ける側がその支援を受容する力」



つまり「受援力」を高めるということは、まさに専門職でないと不可能なソーシャルワークである。

このことに気付かせて頂いたことで、自分にとって災害支援という分野が他人事ではなくなるとともに、講師が話されていた「専門職支援者」として何ができるのか、そのためには何を学び、身につけなければならないかが見えてきた学習会であった。良い機会となったことに感謝である。

諏訪ブロック 中野 仁（介護老人保健施設 虹の森）

大北地域保健医療福祉関係団体合同

災害支援研修会～地域住民と専門職それぞれの視点から考える～に参加して

3年前の11月22日に発生した神城断層地震からちょうど3年が過ぎた11月23日に開催された、災害支援研修会に参加させていただきました。

研修第1部では、県危機管理防災課防災指導員田村様の講義とHUG体験でした。HUGを初めて体験し、福祉職としてまた地域住民として、被災時に避難所を運営することの大変さを感じました。大災害時の避難所では、トイレ、水、支援が必要な方への配慮、ペット等様々なことを一度に考えていかなければならず、またそれを行政のみに頼るのではなく、協働することが必要であり、その事をあらかじめ地域住民のみなさんと共有しておくことがとても大切であることが理解できました。



研修第2部のシンポジウムでは、神城断層地震や熊本地震での体験を介護支援専門員、訪問看護師、介護福祉士それぞれの立場からのお話を伺いました。専門職同士、事業所同士も日頃から災害について地域ケア会議等で話し合い、つながっておくことの大切さを実感し、災害に備え何をすべきなのかを考えさせていただく1日になりました。

※避難所HUGは、平成19年に静岡県が開発した防災ゲームです。

中信地区 大北ブロック 有田 和美

重症心身障がい児・者シンポジウム 2017in 長野

平成29年11月11日、児童発達支援センターにじいろキッズらいふ（長野市）にて、「家族の思いに、地域の支えは応えられているのか？」をテーマに開催し、当事者家族、福祉、医療、行政関係者等、約90人が参加しました。

ライフステージごとに様々な課題に直面してきた二人のお母さんの体験談から、課題や今後取り組むべきこと、どのようにして地域で支えていくかを語りました。

基調報告

『重症心身障がい児者と医ケア児者の課題と支援者側の体制の課題、医療にできることの開拓』

長野こども療育推進サークルゆうテラス代表 亀井 智 泉 氏

児童福祉法改正による支援対象の拡大に対応する支援体制の整備が必要である。

まずは、子どもたち、事業所双方の実態把握と地域診断が必須。ケースから見える地域課題の解決のために、各圏域の協議会で行政を巻き込み、課題解決に向けて動くことが大切である。国では、「医療的ケア児等コーディネーター」の育成、配置が検討され、来年度以降、県でも取り組む予定である。

さらには在宅医療を支える医師の育成、医療機関の役割分担及び連携が重要である。まだ家族に根拠を持って助言、看護ができる小児在宅医療の看護プログラムが未確立である。まずは家族が看護に尽くさなくてもいいように、計画的な人材育成を社会全体で行っていききたい。



シンポジウム：『ライフステージにおける家族の思いに地域の支えは応えられているのか？』

Sさんのお母さん（こども期）

「家族と一緒に暮らしたい」と退院したが、孤独や不安が大きかった。その後、第2子の妊娠出産というライフステージの変化の中で、母の受診時のサポート等制度の狭間での苦労も多かった。人工呼吸器使用のため、学校には母と幼い妹の同伴での通学。学校で体制整備が始まったが、未だ負担は大きく長期休暇中のサービス利用や送迎、家族の体調不良時の対応など課題は多い。

Yさんのお母さん（おとな期）

制度や仕組みができていない中で、様々な機関へ相談をしながら支援を切り開いてきた。数年前から、コスモス在宅クリニックのレスパイト入院を利用することになり、自分の母の介護にも行けるようになった。外出時のボランティアの協力や自宅で安心してみってくれる看護師の存在はあるが、人の確保は課題。また、事業所があっても安心して使えない、制度があっても利用できないという現状に変わりはない。

相談支援専門員 大久保 千枝氏（篠ノ井愛の樹園）

医療的ケアの必要な方が安心して使えるサービスが少ない。家族の大変さに寄り添えるサポートができず、心苦しい。



相談支援専門員 塩原 康二氏（ほっとらいふ相談室桃の郷）

ニーズは明確なのに福祉サービス、医療でもなんとかできないジレンマがある。

医療法人コスモス会 コスモス在宅クリニック医院長 清水 隆一氏

高齢者中心で行っていたが、縁があって障がいのある方を受け入れることになった。初めは現場の不安もあったが、お母さんの様子を見て職員の意識に大きく変化があった。もともと、高齢者施設のため、送迎や添乗員の同乗などは、あたりまえという考え。制度の壁はあるが、垣根を越えて活用できるような草の根的な交流が必要。

アンケートより

- ・本人の思いと家族の思いを混同しない。本人中心の支援を、という亀井さんの言葉が印象に残りました。
- ・医療的ケアの必要なお子さんを抱えているお母さんからのお話は、心が痛い程身にしみました。ライフステージの狭間や制度の使いづらさを埋められるような地域や行政の動きができるとうれしいと思えました。
- ・制度はできた。でも事業所ではやっていない…できない！やれない！ではなく、どうしたらやれるかを考えてほしい。という言葉が突き刺さりました。

リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～

冬の冷えた朝は、起きるのが辛い。「また朝が来たのか…」日々現実を目の前にしていると、朝起きるのも億劫になる。

それでも、顔を洗いカーテンを開ける。太陽が昇る前のオレンジ色をした光が、山の稜線をきれいに浮かび上がらせる。今日という日が、始まるようになっている。反対側の山を見ると黒い夜が終わろうとし、朝を迎え入れようとしている。

「朝なんか来なけりゃいいのに」。夜、布団に入るときにはいつも思うことだが、あっという間に朝は来て勝手に目が覚める。こんな風に思ってしまうのは、日々目の前には現実ばかりがあるからだろう。現実…例えばそれは、こんな田舎にも目を背けたくなるような高齢者の権利が侵害されている現実。

本当は、もっと夢のある明るい仕事をしたかった。しかし、自分が福祉の道に進んだ以上、現実から目をそらすことなくやるべき仕事をしよう。権利が護られた時には、きっと、オレンジ色をした太陽がきれいに朝を照らすことだろう。夢のある明るい朝がやってくるはずだ。2018年、そんな年にしようと思う。

伊那市地域包括支援センター 伊藤直哉



*次号は、特別養護老人ホーム 千寿園（駒ヶ根市）の北澤 愛さんにバトンタッチします。

信州ぐるっと

～はつらつサポーターと共に、御代田らしい地域包括ケアを一步ずつ～

御代田町 介護高齢係 川端恵美

御代田町が平成21年から養成した「生活・介護支援サポーター」は、任意のボランティア団体「御代田町はつらつサポーター」として、平成27年度からは「介護予防・生活支援サービス事業」の住民主体による介護予防通所型サービスBの担い手として活動しています。その功績が認められ、平成27年度「運動器の10年・日本賞」を顕彰。

その賞金の使い道として、通所事業で課題となっていた送迎を「サポーターでやってみませんか？」と何気なく提案してみました。送迎から関わることで、単なる介護予防メニューの提供ではなく、利用者一人ひとりに、サポーターだからできる「さりげない気配りや言葉がけ」が、双方の生きがいや生活意欲につながるという思いが、多少の反発と使命感に燃えているサポーターとの折衝を乗り越え、平成29年度にはNPO法人化、移送支援サービス（福祉有償運送）をスタートすることができました。移送の利用者は少しずつ増え、今は27人が登録するまでに！平成29年度には訪問サービスD「付き添い支援」を受託し、ニーズに沿って一步ずつ活躍の場が広がっていくことで、御代田らしい地域包括ケアを共に目指していきたいです。



12月2～3日開催 子どもの権利条約フォーラム2017（茅野市）～福祉活動委員会が分科会開く～

委員会で支援者また親当事者として親子関係を考える機会が必要ではないかと提起があり「子どもの自己実現を支える親子関係って何？」をテーマに分科会を開催。山下英三郎氏（日本社会事業大学名誉教授）の指導でR Jサークルを用い、年齢、性別、立場、地域…が異なる多様な参加者が学び合いました。親との関係性について、子ども自身の深い考え、目線、思いがあり、子どもの持つ力を理解し尊重することの大切さに気づきました。（福祉活動委員会 子ども部会 曲淵紀子）

今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ（<http://nacsw.jp>）をご覧ください。

日時(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
1月23日(火)	成年後見制度利用促進・権利擁護推進セミナー	塩尻総合文化センター	講師：西岡慶記氏
1月28日(日)	中信地区総会・研修会	松本大学	講師：原田正樹氏
2月17日(土)	北信地区総会・セミナー	にじいろキッズらいふ	講師：熊田均氏
2月17日(土)	南信地区総会・フォーラム	箕輪町文化センター	映画上映、寸劇上演ほか
2月24日(土)	東信地区総会・シンポジウム	小諸市民交流センター	

◎ 入会状況（平成29年11月末現在） * 会員数：1,132名 入会率：30.51% 人口10万人あたりの会員数：54.21%

編集後記

公益社団法人日本社会福祉士会憲章（2015年6月20日制定）に「人々の尊厳を尊重し、住み慣れた地域の中で、安心して共に暮らせる社会の実現」があります。まさに国が掲げた我が事・まるごと地域共生社会の実現と共通した理念です。県下4地区で地区総会並びにセミナーが開催されます。今まさに長野県社会福祉士会員ひとり一人が、我が事・まるごと意識を強く持ち、参加して、ともに生きる社会の実現を目指して参りましょう。

(K. O)